

いわき農林ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



8月号 発行 平成23年8月26日

〈東日本大震災関連〉



「いわき市の復興に関する連絡・調整会議」が開催されました。

8月22日(月)、いわき市文化センターにおいて、第1回いわき市の復興に関する連絡・調整会議が開催されました。

この会議は、東日本大震災からの復旧・復興を「オールいわき」体制で推進するため、国、県、市内関係機関及び団体が連絡・調整を円滑に進めることを目的として設置され、37機関・団体が構成されています。

始めに、いわき市長より、いわき市の復旧・復興は険しい道のりであるが、本会議の構成機関の総力を結集して対応したいとの力強いあいさつが行われ、引き続き議事に移り、各機関から復旧・復興に関する方針等が説明されました。

いわき市の復旧・復興に当たっては、パブリックコメントや説明会を通じて市民との情報共有を図った上で、推進期間は全体で10年間、このうち、復旧は3年間で、復興は5年間で、発展を含めて10年とすることが説明されました。

次に関係機関からの情報提供として、東日本大震災による厳しい現状が報告されたほか、質疑応答では、活発な議論が展開され、「復旧計画・復興ビジョン」については9月中、「復旧・復興計画」については、年内を目標に策定することが確認されました。



「直売所等の売り上げ回復」が未だに遅れています。

7月号に続き、東日本大震災後のいわき地方における農産物直売所等の売り上げの回復状況について、34直売所、7

市場の計41箇所の聞き取り結果を報告します。

その結果、売り上げの回復状況については、30%以下が10箇所、50%のところは14箇所、そのほか80%以下が17箇所でした。

最高でも80%の回復、最低のところでは、10%であるとの回答であり、子どもを連れた若い客層については、相変わらず少ないとの情報がありました。直売所では、前回と比較して80%以下の回復が8箇所増加しており、回復傾向にありますが、震災前までの状況までにはほど遠く、震災後の原子力発電所事故に伴う風評被害の影響は、依然として深刻な状況にあると言えます。

いわき農林事務所では、農産物の風評被害払拭のための農産物のモニタリング結果をこまめに情報発信するとともに、今後も直売所の売り上げの回復状況を確認していくこととしています。

直売所等の売り上げの回復状況(聞き取り8月20日現在)

区分	直売所 箇所	市場 箇所	合計
30%以下	10(9)	0(0)	10(9)
30~50%	10(9)	4(4)	14(13)
50~80%以下	14(6)	3(3)	17(9)
80~100%	—	—	—
計	34(24)	7(7)	41(31)

※()内は前回7月26日現在



(ようやく品揃えが増え始めた直売所の様子)
(アグリ遠野直売所)



「大震災の復旧」に向けた災害査定が進んでいます。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災も災害発生から間もなく6ヶ月を経過しようとしています。

この月日の経過とともに、復旧について少しずつではありますが確実に前進しています。

国の補助を受けて災害復旧を実施するためには、事業計画について国の査定を受ける必要があります。この査定が終了すると復旧工事が実施可能となります。

いわき地方の農林業災害の査定については6月から実施されており、採択されたのは、農地等については、21地区で約1億3千万円、林業等が12地区で約6億7千万円となっています。

引き続き、10月上旬まで査定が予定されており、いわき農林事務所では、査定を終了した地区から、速やかに現地の復旧工事を進めていくこととしています。

(農地、林業関係の災害査定の結果 7月29日現在)

区分	箇所	査定額千円
農地	5(3)	12,628(6,353)
農業用施設	14(8)	50,703(37,080)
集落排水施設	2(0)	70,408(0)
合計	21(11)	133,739(43,433)
区分	箇所	査定額千円
治山施設	2(2)	246,579(246,579)
緊急治山事業	2(2)	309,500(309,500)
林道	8(7)	112,655(89,659)
合計	12(11)	668,734(645,738)

()内は7月22日までの箇所、査定額を示す。



「いわき野菜見える化プロジェクト」が実施されました。

8月20日(土)、いわき市四倉町のいわき市農業協同組合カントリーエレベーター

(穀物の貯蔵倉庫：乾燥・調整のできる施設)において、いわき市農林水産物風評被害対策CMの撮影が行われました。

この撮影は、福島第一原子力発電所事故の影響によるいわき市産農林水産物の風評被害を払拭し、安全性をPRするためのテレビCMを制作するもので、いわき市が行っているものです。撮影は、市内の農業者、県立磐城農業高校生、関係団体職員など約1,000名が参加して行われました。



(「いわき野菜見える化プロジェクト」開始宣言の様子)

当日は、涼しい曇り空に恵まれ、約1時間30分の撮影時間にもかかわらず、撮影はスムーズに進み、午後は、いわき市農業協同組合夏井支店に場所を移して、農産物の放射性物質の分析作業の状況についても撮影が行われました。

このCMは、首都圏の複数のテレビ局で10月上旬頃から2週間ほど、15秒間放映されますので、いわき産農産物の風評被害払拭の効果が期待されます。



(「いわき野菜見える化プロジェクト」制作の様子)



「電動三輪バイク」が震災復興のため活躍しています。

東日本大震災からの復旧・復興のために兵庫県姫路市の小山工業株式会社より

電動三輪バイクの寄贈を受け、7月28日登録を行いました。

この電動バイクは、道路車両運送法上、側車付軽二輪に該当し、普通免許が必要です。

使用する際は100Vのコンセントを使って充電します。

このバイクは、排気ガスや二酸化炭素、騒音を出さないのので、地球環境にやさしい優れた特徴があります。(歩行者の危険防止として疑似エンジン音が出ます。)

車両は、3輪のため転倒しにくく、運転もアクセルとブレーキ操作のみのため簡単で、加速は滑らかです。

ただし、走行距離は1回の充電で約30kmが目安となる点に注意が必要です。



(電動三輪バイク)
「ECOMOWing-B」

エコな乗り物である電動バイクは、被災地いわきの復旧・復興のために積極的に活用して行くこととしています。

< 一般情報 >



「四時川沿岸土地改良区施設見学・学習会」を開催

8月7日(日)、いわき市山玉町ほかにおいて、四時川沿岸土地改良区といわき農林事務所の共催により、農業用水利施設を見学する「四時川沿岸土地改良区施設見学・学習会」を開催しました。



(施設見学・学習会参加者全員で)

この見学・学習会は、地域の農業用水利施設について理解を深めてもらうとともに、施設の維持管理の大切さを理解してもらうことを目的として、地元大高区の子どもたちや保護者など約40名が参加して行われました。

当日は、土地改良区の坂本理事長が各施設の役割などを説明しながら、四時頭首工(堰のこと)、逆サイホン(Uの字型のパイプ状の水路で上流側と下流側の水位差を利用して水を流す施設)、用水路などの見学を行いました。参加者たちは、普段は目にすることの少ない農業用水利施設を見学することで、施設の役割と、大切さについて理解を深めていました。

いわき農林事務所からのお知らせ



○福島県農林水産業の復興に関する意見交換会

日時：8月29日(月) 14:00～15:30

場所：いわき合庁南分庁舎3階大会議室 ※当日参加もできます。

平成23年3月11日発生した「東日本大震災」の災害復興のために！

がんばっぺ“ふくしま!!” がんばっぺよ“いわき!!”

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6152 Fax (0246)24-6196

(県いわき合同庁舎 3階)

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp



iwaki.nourin@pref.fukushima.jp